

むぎ の
麦野A遺跡6

—麦野A遺跡第19次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1055集



調査番号 0724
遺跡記号 MGA-19

2009

福岡市教育委員会

序

いにしえの昔から大陸文化の窓口として栄えた福岡市は、21世紀の今日も更なる発展を目指してさかんに都市開発が推し進められています。それに伴ってやむなく失われる埋蔵文化財については、将来にわたって記録を保存するための発掘調査をおこなっています。

本書は、渡辺菊枝氏による共同住宅の建設に先立って実施した麦野A遺跡第19次調査の発掘調査報告書です。

今回の発掘調査では、弥生時代と奈良時代の集落跡が発見されました。なかでも奈良時代の竪穴住居跡は、竈を壁面の南西隅に据え付けた稀な構造をしていました。この竈の配置は、この時代の住居の構造を考える上で貴重な発見となりました。

本書は、これらの発掘調査の成果を収録したものです。本書が市民のみなさんに広く活用され、埋蔵文化財保護に対するご理解の一助になるとともに、学術研究に活用していただければ幸いです。

なお、発掘調査から整理報告までの間には、渡辺菊枝氏をはじめ多くの方々のご指導とご協力をいただきました。記して心から感謝の意を表する次第であります。

平成21年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 山田 裕嗣

.....れいげん.....

1. 本書は、福岡市教育委員会が共同住宅の建設に先立って、2007(平成19)年7月19日～8月10日までに福岡市博多区麦野5丁目8-27ほかで緊急発掘調査した麦野A遺跡第19次調査の発掘調査報告書である。
2. 本書に使用した方位はすべて磁北方位である。
3. 遺構は、貯蔵穴をSI、竪穴住居跡をSC、土壤をSK、溝遺構をSD、ピットはSPと記号化して呼称し、その後にすべての遺構を01から通番してNoを付した。
4. 本書に掲載した遺構と遺物の実測は小林義彦が作成した。
5. 本書に掲載した遺構と遺物の製図は、小林と今村ひろ子が作成した。
6. 本書に掲載した遺構と遺物の写真は小林が撮影した。
7. 本書の執筆・編集は小林が行った。
8. 本書に係わる遺物と記録類は一括して埋蔵文化財センターに保管している。

調査番号：0724	遺跡番号：MGA-19	分布地図番号：012-0048
調査地籍：福岡市博多区麦野5丁目8-27・28・29・34		
工事面積：1,273 m ²	調査対象面積：506 m ²	調査実施面積：374 m ²
調査期間：2007年7月19日～8月10日		

本文目次

序	
I. はじめに	
1. 発掘調査にいたるまで	1
2. 発掘調査の組織	1
3. 立地と歴史的環境	3
II. 調査の記録	5
1. 調査の概要	5
2. 貯蔵穴	7
3. 壁穴住居跡	10
4. 土 壁	12
5. 溝遺構	13
6. その他の遺構と包含層出土の遺物	14
III. 小 結	14

挿図目次

1. 周辺遺跡分布図(1 / 25,000)	2
2. 麦野A遺跡位置図(1 / 6,000)	4
3. 麦野A遺跡第19次調査区位置図(1 / 1,000)	6
4. 遺構配置図(1 / 150)	7
5. 調査区全景(北より)	8
6. 1号住居跡・5号貯蔵穴(北より)	8
7. 5号貯蔵穴実測図(1 / 40)	9
8. 5号貯蔵穴全景(南より)	9
9. 5号貯蔵穴断面(南より)	9
10. 5号貯蔵穴出土遺物実測図(1 / 4)	10
11. 5号貯蔵穴出土遺物(縮尺不同)	10
12. 1号住居跡実測図(1 / 40)	11
13. 1号住居跡全景(東より)	11
14. 1号住居跡カマド実測図(1 / 40)	11
15. 1号住居跡カマド全景(北東より)	12
16. 1号住居跡カマド土層断面(北東より)	12
17. 1号住居跡出土遺物実測図(1 / 4)	12
18. 2号土壤実測図(1 / 30)	13
19. 2号土壤全景(東より)	13
20. 3・4号溝断面実測図(1 / 40)	13
21. 3・4号溝全景(北より)	14
22. 3・4号溝土層断面(南より)	14
23. 4号溝出土遺物実測図(1 / 3)	14
24. 14・17号ピット出土遺物実測図(1 / 4)	14
25. 包含層出土銅錢拓影(2 / 3)	14
Tab. 1 麦野A遺跡調査一覧表	5

I. はじめに

1. 発掘調査にいたるまで

麦野A遺跡の立地する麦野台地は、春日市と境を接する福岡市の南東端にあり、のどかな田園風景が広がる農村地帯であった。明治22(1889)年、この地に九州鉄道の雜餉限駅が、また大正13(1924)年には西日本鉄道の雜餉限駅も開設されて市街化が始まる。この恵まれた交通の利便性によって一帯の田畠は次第に住宅地と化し、一層の市街化が進んだ。ところが、近年は社会環境の変化による市街地の再開発が急速に進み、次第に低中層の共同住宅へと建て替わりつつある。

西鉄雜餉限駅に近い麦野5丁目周辺でもその傾向が現れ、個人住宅に混じって2～5・6階建ての共同住宅が次第に増えつつある。渡辺菊枝氏は、麦野5丁目8～27ほかに共同住宅の建設を計画され、その地における埋蔵文化財有無の照会が、平成19(2007)年4月9日に埋蔵文化財第1課事前審査係に提出された。

申請地が所在する麦野台地は、麦野A・B・C遺跡や雜餉限遺跡として周知化された埋蔵文化財包蔵地内にあり、周辺地での発掘調査例から奈良時代を中心とする集落域が広がっていることが予想された。そこで、2007(平成19)年5月10日に原因者立会のもとで確認調査を実施した。その結果、申請地は丘陵が東へむかって緩やかに斜面する丘陵端にあり、表土下70～110cmで土壌と柱穴が検出され、古代の集落域が広がっていることが確認された。遺跡は現状での保存が望ましいが、建物の設計構造上建築計画案は設計変更が不可能なものであった。そこで、福岡市教育委員会埋蔵文化財第1課では発掘調査によって記録保存を図ることとした。共同住宅は、竣工期が決められて早急な調査の着手が望まれたために発掘調査は2007(平成19)年7月18日よりはじめ、8月9日に無事終了した。発掘調査期間中は、台風の接近に伴う調査区の冠水や溢れる排水の仮置き場の確保と養生に難渋した。更に、この夏は厳しい猛暑で、斜面上での発掘作業は難渋を極めたが、作業に従事した方々の協力もあって予定より早く終了することができた。なお、発掘調査は、事業の性格上原因者負担による民間受託事業と国庫補助事業とで実施した。

2. 発掘調査の組織

調査委託 渡辺菊枝

調査主体 福岡市教育委員会

調査総括 文化財部埋蔵文化財第1課

文化 財 部 長 矢野三津夫

埋 蔵 文 財 第 1 課 長 山口譲治

埋蔵文化財第1課調査係長 米倉秀紀

調査庶務 文 化 財 管 理 課 榎本芳治(課長) 古賀とも子 鈴木由喜(前任)

調査担当 埋 蔵 文 財 第 1 課 小林義彦

調査・整理作業

石橋陽子 伊藤美伸 今村ひろ子 大瀬良清子 坂梨美紀 知花繁代 塚本よし子

土斐崎孝子 西田文子 馬場イツ子 濱フミコ 播磨博子 福田 操 松尾千寿

松下さゆり 三栗野明美 森田ちはる 森田祐子 矢川みどり 山口慶子 吉川貴久

発掘調査にあたっては、地権者の渡辺菊枝氏をはじめ多くの関係者諸氏にご協力とご配慮をいただいた。改めて深く感謝申し上げます。



I. 周辺遺跡分布図(1 / 25,000)

3. 立地と歴史的環境

麦野A遺跡は、古くから雑餉と通称される雑餉限にあり、位置的には大野城市と春日市に挟まれた福岡市のもっとも南端に位置する。地形的には、福岡平野を貫流する御笠川と那珂川との間にある春日丘陵の東辺に並行してのびる丘陵上に立地している。春日丘陵には、奴国王墓とされる須玖岡本遺跡があり、その周辺には青銅器製造工房跡の須玖永田遺跡や須玖五反田遺跡などが展開している。麦野丘陵は、この春日丘陵から北東へ1kmほどの距離にある。この丘陵は、阿蘇4火砕流によって形成された火砕流台地で鳥柄ローム層を基盤層とし、諸岡川などの開析による谷が幾筋も嵌入していくつかの小さな低丘陵を形成している。この麦野から雑餉限の低丘陵上に点在する遺跡を地形的に区分して、北から麦野A遺跡、麦野B遺跡、麦野C遺跡、南八幡遺跡、雑餉限遺跡と呼んでいる。

麦野A遺跡のある雑餉限の丘陵上でもっとも古い遺物は、旧石器時代の石刃や剥片がある。麦野A遺跡1次調査区、麦野B遺跡3次調査区、雑餉限遺跡の5次調査区や10次調査区で出土しており、台地上の広い範囲にわたって拡がっていることが明らかになりつつある。

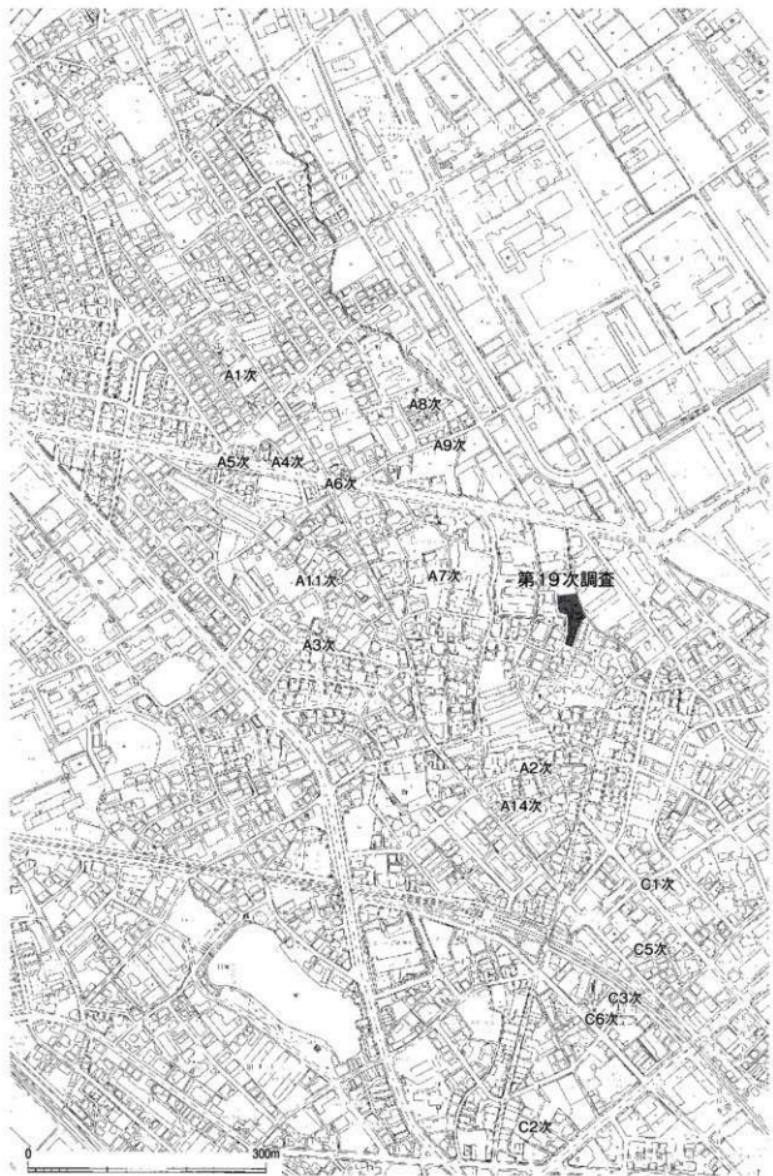
次に、縄文時代の遺構は稀薄である。麦野B遺跡の3次調査区や南八幡遺跡の6次調査区、7次調査区で「落とし穴」と推察される土壙が検出されているが、出土遺物が少なく時期を明確にするには至っていない。麦野C遺跡3次調査区では該期の石鎚が出土しているが、晚期の刻目突帯文期にいたるまで明確な遺構や遺物は少ない。

弥生時代になると、遺構は次第に拡がりを見せる。前期は南端の雑餉限遺跡5次調査区で、円形住居跡と貯蔵穴からなる集落跡が検出され、大規模な中心的集落のあった可能性が想起される。また、麦野A遺跡第18～20次調査区や麦野C遺跡12次調査区でも貯蔵穴群が検出されており、丘陵の北部域にも拡がっている。中期は、麦野C遺跡で方形の住居跡が検出されている。後期には、雑餉限遺跡5次調査区や南八幡遺跡5次調査区で方形の住居跡が散見されるだけのやや稀薄な拡がりを示すが、南八幡遺跡9次調査区ではガラス小玉を伴う住居跡や掘立柱建物跡がまとまって検出されている。雑餉限丘陵では、南縁の三つの小丘陵上で比較的小規模な集落が点的に営まれたものと推測される。一方、墳墓は麦野C遺跡5次調査区で小児壇棺墓1基があるので集落域に伴う墳墓群は明確ではない。

古墳時代になると、遺構はまた稀薄になる。殊に、前期から中期の遺構や遺物はほとんどなくなる。後期には、南八幡遺跡2次調査区と3次調査区で住居跡が検出されており、一定の集落域を構成して展開していたものと推測されるが、奈良時代の大規模な集落跡との関連については明らかではない。

つづいて奈良時代になると、掘立柱建物群を伴う大規模な集落域が出現する。7世紀末から8世紀はじめには、雑餉限遺跡9次調査区で方形に配置された大型の建物跡群が出現する。その規模と配置は官衙的な性格を想起させるものがある。さらに、8世紀前半から後半に至ると集落域は、丘陵の全域にわたって展開する。南端の雑餉限遺跡では、5次調査区で50棟を越す住居跡が検出されている。また、東側の麦野C遺跡では隣接する1次調査区と5次・13次調査区では70棟にのぼる住居跡群がある。住居跡は、数回に亘っての建て替えがなされ、長期的に集落が展開していたことが推測される。西側の南八幡遺跡でも台地南縁の2次・3次・6次・8次・9次調査区を中心に集落域が展開しており、小さな丘陵ごとに多少の規模的な差異を有しながらも集落域が展開している。殊に、雑餉限遺跡や麦野C遺跡はその傾向が顕著で、雑餉限丘陵における拠点集落的な様相を想起させる。あたかも「雑餉限」の名が、大宰府官人の雑餉の居住地とか食糧倉庫が建ち並んだ所とする古説に符合するような感がある。

なお、平安時代のはじめになると集落域は急速に縮小する。麦野A遺跡の3次調査で井戸跡が検出されているほかに柱穴から遺物が散見され、掘立柱建物跡の存在が想起される。



2. 麦野A遺跡位置図(1 / 6,000)

II. 調査の記録

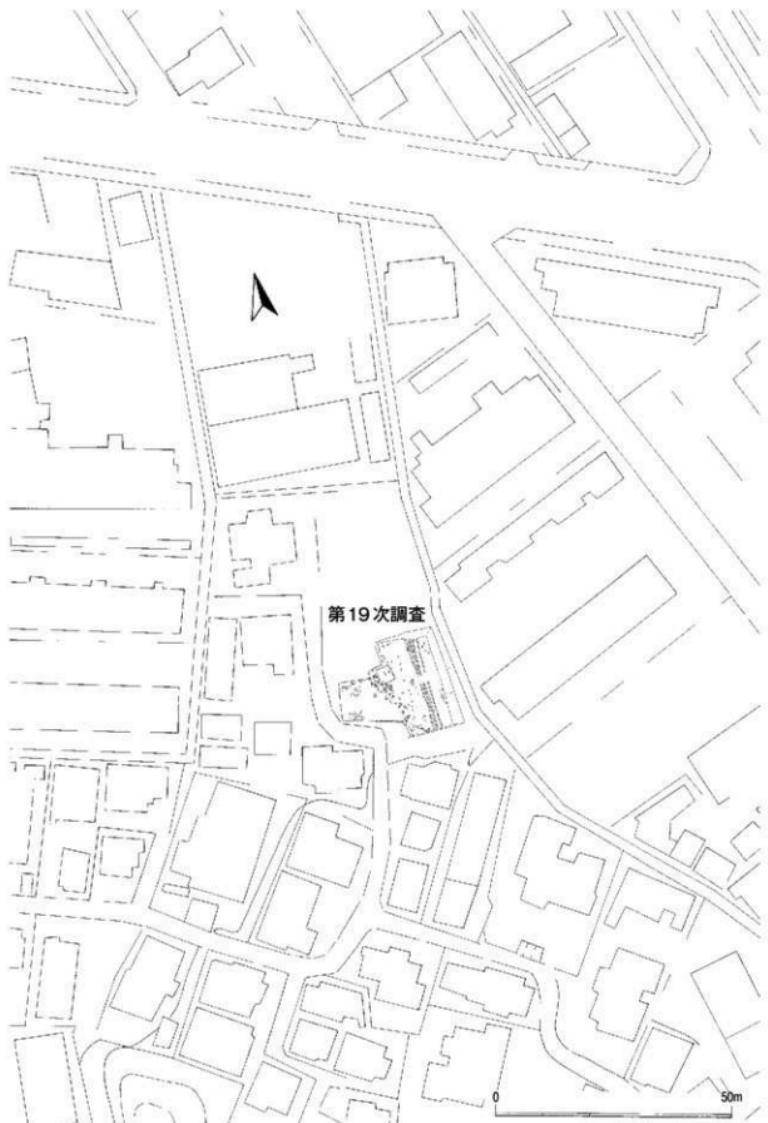
I. 調査の概要

麦野A遺跡は、御笠川の西岸を南北にのびる雑駄限の丘陵上にある。この雑駄限丘陵は、彎入する開析谷によって五つの低丘陵に分かれ、その丘陵上に北から麦野A、麦野B、麦野C、南八幡、雑駄限の遺跡群が縦列的に占地している。麦野A遺跡は、この雑駄限丘陵の最北部に位置する南北長が500m、東西長が150mほどの南北に長い遺跡で、南線は麦野C遺跡、南西線は麦野B遺跡が細い開析谷を隔てて対峙している。第19次調査区は、南北に長い麦野A遺跡の南東線に位置し、東側は井相田C遺跡の南線から彎入してくる開析谷の開口部に面している。

発掘調査は、平成19(2007)年7月19日の表土層の除去作業から開始した。調査は、共同住宅の建設によって破壊される範囲について実施する予定で臨んだ。しかし、建設地が緩斜面上に配置されているため排土量が予測を上回る量に達した。そのため遺構の希薄な南側の緩斜面は、排土の仮置きに必要な最小限のスペースを割愛して排土置き場を確保した。一方、北側の丘陵上は駐車場の予定地で現状保存を図る予定であったが、I号住居跡(SC-01)の検出によって丘陵上は削平が著しく、表土層下数センチで遺構があることが判明した。その結果、事務所用地を除く丘陵上を調査の対象地に加えた。この年は、例年ない酷暑が連日続き、加えて調査地が緩斜面上に占地しているという悪条件のために調査にあたった人々の労苦は一通りではなかった。更にこの間、台風5号の接近による調査区の水没と云うアクシデントに見舞われながらも、関係者諸氏の協力で予定より早い8月9日に無事調査を終え、翌10日に発掘機材等を搬出してすべてを終了した。資料整理と報告書の作成は平成20年度に実施した。改めて発掘調査や整理作業に従事された人々の労苦と協力に感謝します。

遺跡名	次数	調査番号	所 在 地	調査面積(m ²)	報告書	時 期	遺跡の概要	主な出土遺物
麦野A遺跡群	1	8232	麦野1-29-56	600	107	中世後半	中世：井戸跡、掘立柱建物跡	
麦野A遺跡群	2	8337	麦野5-24	80	未刊		奈良：井戸跡	
麦野A遺跡群	3	9116	麦野4-14-23	247	275	古代、中世	奈良：住居跡、土壙 中世：掘立柱建物跡	
麦野A遺跡群	4	9316	麦野1-27-3+5	134	409	古代(9~10c)	平安：井戸跡	
麦野A遺跡群	5	9412	麦野1-27-1+2	未刊	古代		奈良：井戸跡、土壙	
麦野A遺跡群	6	9824	麦野3-11-29	224	967	古代～中世	奈良：住居跡、溝 平安：井戸跡、土壙、溝	
麦野A遺跡群	7	9972	麦野5-2-30-36	450	867	古代(8C後半～9C初) 中世	奈良：平安：溝、掘立柱建物、中世： 掘立柱建物、溝	
麦野A遺跡群	8	5	麦野3-10-10	178	774	古代	住居跡、掘立柱建物跡	
麦野A遺跡群	9	31	麦野3-10-10	62	未刊	中世後半(15~16c)	土壙、溝	
麦野A遺跡群	10	61	麦野5-2-33	405	719	古代、近世	古代：住居跡、掘立柱建物跡、近世： 井戸跡、溝	
麦野A遺跡群	11	130	麦野4-11-5	130	867	鉛文？：古代(8c後半)	鉛文？：土壙(落とし穴) 奈良：住 居跡	
麦野A遺跡群	12	155	麦野3-11-28-57-81～84	80	年報VOL.16	古代？	柱穴	
麦野A遺跡群	13	156	麦野2-1-8	250	867	古墳、古代		
麦野A遺跡群	14	367	麦野5-5-39	260	859	古代(8c中～後半)	古墳：土壙、平安初：住居跡、掘立 柱建物	
麦野A遺跡群	15	510	麦野5-1-41	91	年報VOL.20		住居跡、掘立柱建物跡	
麦野A遺跡群	16	529	麦野1-29-12	26	年報VOL.20			
麦野A遺跡群	17	619	麦野5-1-40-34-35	336				
麦野A遺跡群	18	704	麦野3-10-12	1,565	866	弥生、古代、中世(15c)	弥生：貯蔵穴、住居跡、落とし穴、 古代：住居跡、中世：住居跡、溝	
麦野A遺跡群	19	728	麦野5-8-27, 8-29-34	374	本報告	弥生、古墳後期、近世	弥生：住居跡、古墳後期：住居跡、土壙、 近世：溝	
麦野A遺跡群	20	755	麦野3-10-11他	648		弥生、古代、中世	弥生：住居跡、貯蔵穴、古代：住居 跡、土壙、中世：溝	

Tab.1 麦野A遺跡調査一覧表

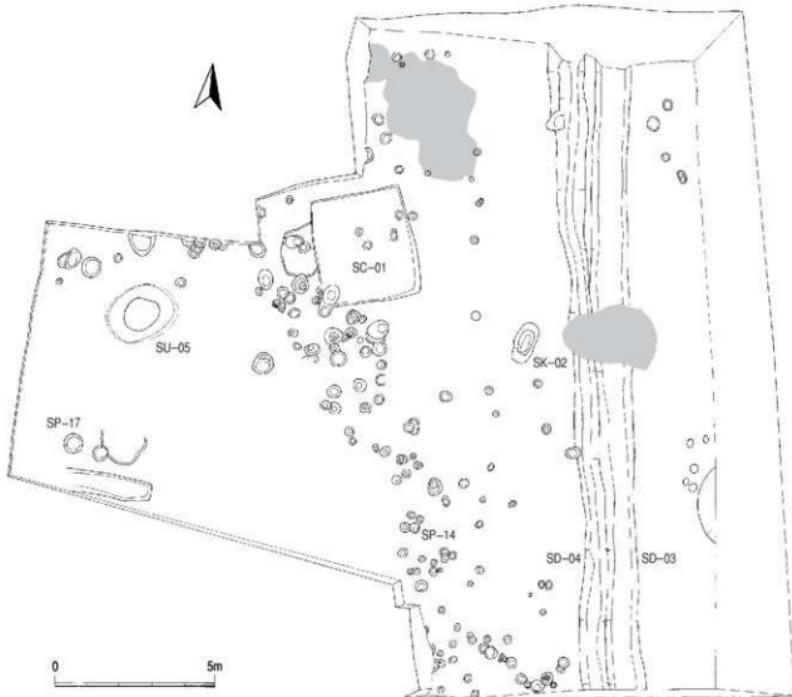


3. 麦野A遺跡第19次調査区位置図(1 / 1,000)

発掘調査の結果、貯蔵穴と住居跡や土壙、溝のほかに柱穴などの遺構を検出した。時期的には、弥生時代と古代、近世の3時期に大別され、貯蔵穴と土壙が弥生時代、住居跡と溝が古代、丘陵の下縁を巡る溝が近世に比定される。このうち弥生時代前期の貯蔵穴は、調査区西部の丘陵上で1基が単独で検出されたが、北西方へ400mの距離にある第18・20次調査区でまとまって分布する貯蔵穴群が検出されており、本来的には丘陵上に沿って幾つかのまとまりを形成しながら拡がっているものと考えられる。また、柱穴には、柱痕跡を残すものもあるが、ひとつの建物跡としてはまとめなかつた。

2 貯蔵穴 (SU)

貯蔵穴は、調査区の西端の丘陵上で1基検出した。丘陵上の調査区設定がきわめて限られた狭小な範囲に留まっているために、その分布の在り方は明らかでない。しかしながら、道路を挟んだ家屋の解体中には、鳥栖ローム層上で黒色土の拡がりが観察されており、西方の丘陵上に幾基かの貯蔵穴群が拡がっている可能性も考えられる。一方、北方に位置する第18次調査区や第20次調査区などで同期の貯蔵穴群がまとまって分布しており、本来的には丘陵の尾根筋上に比較的まとまった小群が分布している。



4. 遺構配置図(1 / 150)



5. 調査区全景(北より)

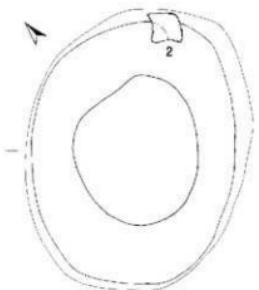


6. 1号住居跡・5号貯蔵穴(北より)

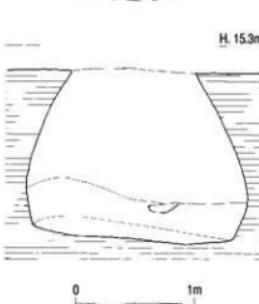
5号貯蔵穴 SU-05 (7 ~ 11)

5号貯蔵穴は、調査区の西部に拡がる台地上にある。床面の平面形は、短軸が170cm、長軸が220cmの梢円形プランをなし、N-42°-Eに主軸方位をとる。床面は、ほぼ平坦であるが東側壁間にやや浅く凹レンズ状に凹む。中央部は比較的堅く踏み締められているが、乗降用の梯子段を掛けたピットは検出できなかった。壁面は、床面より30~40cmほどの高さまで外方に向かってフラスコ状に緩やかに膨らんだ後に、屈曲して大きく内傾しながら入り口に向かって窄まるいわゆる袋状の断面形をなしている。入り口の平面形は115~125cmの梢円形プランで、床面の形状をそのまま窄めた形状をなしている。床面から入り口までの高さは150cmであるが、台地の削平状況を勘案すると本来的には2m以上の深さがあったと推考される。覆土は、全体に黒色土の單一層であるが、オーバーハングしている壁面上方の崩落土が床面上や壁際にブロック状に幾層も混入し、基盤層の鳥栖ローム層と黒色土が互層的に堆積していた。遺物は、非常に少ないが床面から15~25cmほど浮いた北西壁際で小型と大型の壺型土器が各々1個体出土した。開削期は前期後葉である。

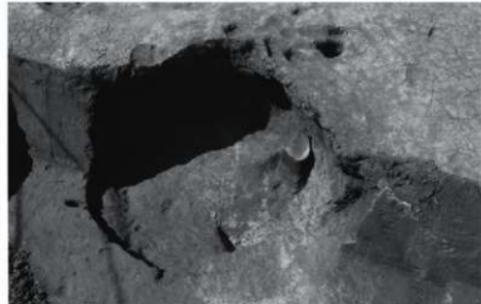
1は口径が9.3cm、底径が7cm、器高が17.2cmの小型壺である。口縁部は外彫氣味に内傾する頸部から屈曲して「く」字状に外反する。この屈曲面には外面に1条の緩やかな三角凸帯が巡り、内面にはシャープな稜を作る。胴部はやや肩の張った球形で、頸部との境には緩やかな段を形成する。底部は円盤貼り付け。調整は口縁部~頸部が丁寧なナデ、胴部は内面が押圧ナデ、外側はヘラ磨き。胎土は精緻で微細砂と雲母微細のほか、シャモット様の赤褐色粒を含み、



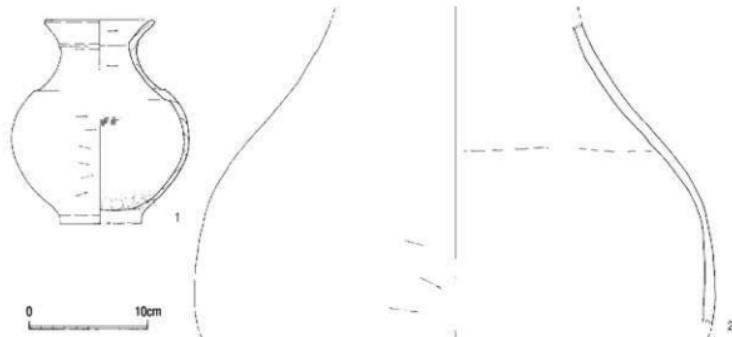
8. 5号貯蔵穴全景(南より)



7. 5号貯蔵穴実測図(1/40)



9. 5号貯蔵穴断面(南より)



10. 5号貯蔵穴出土遺物実測図(1／4)

焼成は堅敏。外面はにぶい黄褐色～褐色、内面は明黄褐色。2は大型の壺である。頸部は球形の胴部から緩やかに内傾する。調整は頸部内面がナデ、胴部内面が指頭押圧ナデで外面は丁寧な研磨痕が残る。胎土は良質で、細～石英中砂粒と雲母粒を含み、焼成は堅敏。色調は明赤橙色。

3 竪穴住居跡 (SC)

竪穴住居跡は1棟を検出した。立地的には丘

陵が東の谷へ向かって緩やかに傾斜する丘陵の落ち際にある。調査区のほとんどが緩傾斜面であるために住居跡群の拡がりは明らかではないが、単基で集落域を構成するとは考えがたく、西に拡がる丘陵上には幾棟かの住居群が拡がっている可能性が想起される。

1号住居跡 SC-01 (12 ~ 17)

1号住居跡は、調査区中央部の丘陵が東側の斜面に向かって緩やかに傾斜を始める落ち際に位置している。平面形は、南北長が3.4mで東西長は北壁が2.8m、南壁が3.15mのやや台形に近い長方形プランを呈する。床面は、全体に浅い凹凸があり、黄褐色粘土（鳥栖ローム）を3～5cmの厚さに敷き詰めた貼床である。標高は14.4m。壁面は急峻に立ち上がり、壁下に周溝は巡っていない。壁高は西壁が55cm、東壁が13～20cmである。この壁面の南西隅にカマドが取り付けられている。カマドは、灰褐色粘土で固めた袖をコーナーから50cmほど馬蹄形状に巡らしている。焚き口部には袖に直交するように灰褐色粘土の帯があり、焚き口はドーム型をなしていたものと推考される。火床は25～30cmの円形プランで深さは5cm。浅い凹レンズ状の底面には強い火熱を受けた焼土壁が1～2cmの厚さで固まり、その上面には炭灰層が薄く溜まっていた。煙道は、火床から35cmほど上縁で横へ50cmほど延びている。主柱穴は、中央で1本が検出されたが、これに対応する柱穴や壁外での補助穴も検出されなかった。遺物はカマド内などから土師器甕や壺、壺蓋にほか須恵器壺などの小片がわずかに出土したのみである。

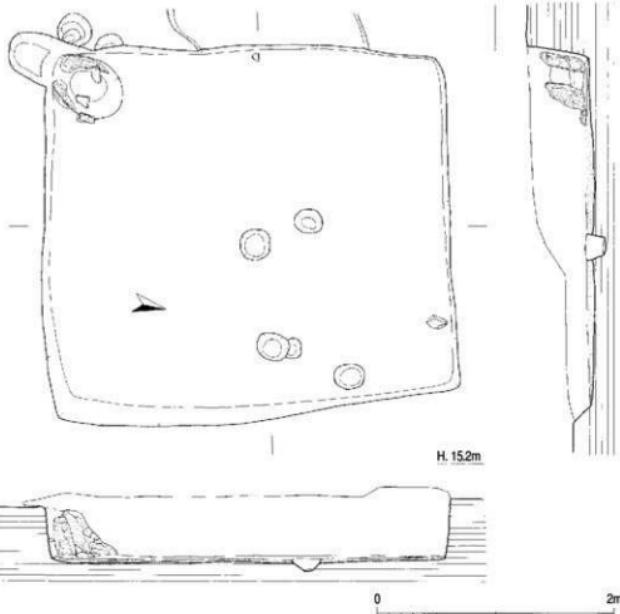
3は小型の土師器甕で口径は16cmである。口縁部は「く」字状に短く外反し、胴部は短い砲弾状をなす。調整は口縁部がヨコナデ、胴部は外面がタテハケ目、内面はヘラケゼリ。胎土には微細～小砂



11. 5号貯蔵穴出土遺物(縮尺不同)

粒と雲母微細を多く含み、焼成は良好。

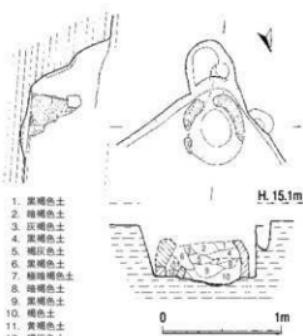
4は土師器壺で底径が14.5cm。底部は丸底気味で胴部は長胴形をなす。外面はやや細かいハケ目、内面は粗いハラケズリで内底面は指頭押圧ナデ。胎土には細～石英中砂粒と雲母微細粒を含み、焼成は良好。色調は外面がくすんだ黄橙色、内面はくすんだ明橙色。5は口径が20.6cmの瓶である。口縁部は肉厚の胴部から短く「く」字状に外反する。胴部中位には太くて短い牛角状の把手が付く。調整は口縁部がヨコナデ、胴部は外面が粗いナデ、内面はハラケズリ。胎土には微細～石英小・中砂粒を多く含むほか雲母微細を含む。色調は外面がくすんだ灰橙色、内面はくすんだ橙色。6は高台付の須恵器壺である。口径は14.2cm、高台径10.1cm、器高は6.2cm。口縁部は小さく外反し、高台は外傾する。調整は口縁部～体部がヨコナデ、内底面がナデ、底部はハラ切り。



12. 1号住居跡実測図(1/40)



13. 1号住居跡全景(東より)



14. 1号住居跡カマド実測図(1/40)

胎土は精良で細～小砂粒と雲母微細を含み、外面はくすんだ灰白色、内面は淡灰紫色。

7は鉄錆の茎片か。断面形は身幅が4mmの方形をなす。

8は砂岩質の砥石片で、表裏と両側面を砥面として使用している。身幅は6.2～7.5cm、厚さは2.5～2.8cm。

4 土 壤 (SK)

土壌は、1基を検出した。単独の検出と遺物が皆無であるために時期や機能および分布的な拡がりは明らかでない。

2号土壤 SK-02

(18・19)

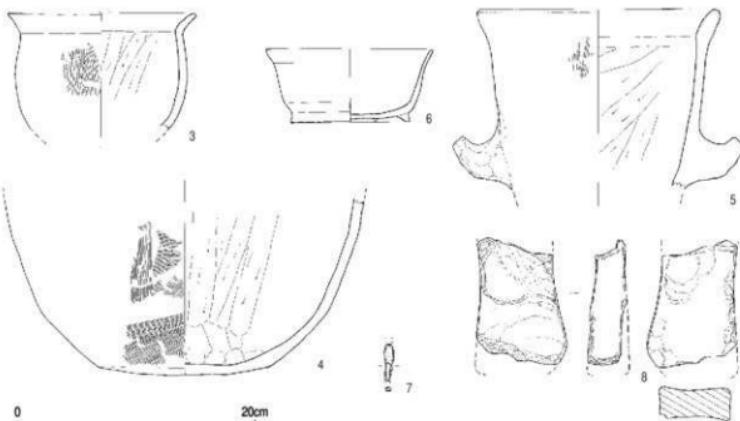
2号土壤は、調査区の北よりの緩斜面上に位置し、東へ1mの距離には丘陵の下線を巡る4号溝と3号溝が南北方向に並走して延びている。平面形は、長軸が140cm、短軸が61～70cmの隅丸長方形プラン



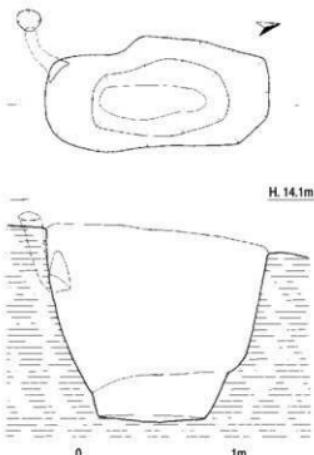
15. 1号住居跡カマド全景(北東より)



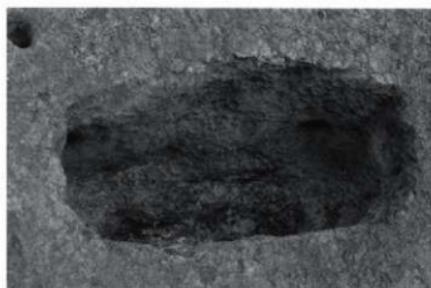
16. 1号住居跡カマド土層断面(北東より)



17. 1号住居跡出土遺物実測図(1／4)



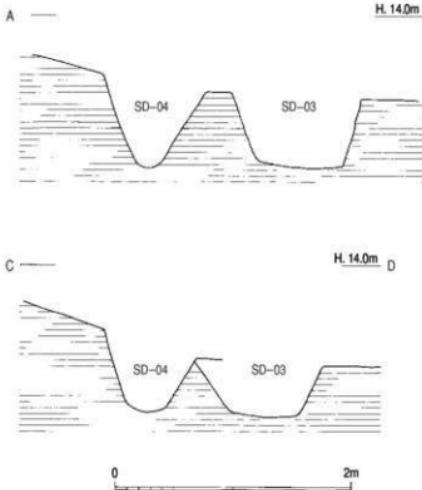
18. 2号土壤実測図(1/30)



19. 2号土壤全景(東より)

をなし N-15.5°-E に主軸方位をとる。床面は長軸が 67cm、短軸が 23cm の長楕円形プランで、墳底は、標高 12.69m。壁面は小さく膨らみながら緩やかに窄まり、墳底より 20 ~ 30cm 上縁で小さく屈曲して直線的に墳底へ至るいわゆる 2段掘りの構造をなしている。断面形は、浅い舟底状をなし、南北口壁の西側には

は幅が 15cm、高さが 25cm のアーチ状の開口部がある。この開口穴は、土壌の南西隅から 25cm 離れた直径が 13 × 15cm の円形の小穴へトンネル状に続いている。覆土は黒色土の単一層で、遺物は皆無。覆土的には 5 号貯蔵穴と同時期が考えられる。



20. 3・4号溝断面実測図(1/40)

5 溝遺構 (SD)

溝遺構は、丘陵の下端で並行して伸びる 2 条の溝を検出した。この 2 条の溝は開削期に大きな時差があり、関連性は全くない。

3号溝 SD-03 (20 ~ 22)

3号溝は、調査区の東端部、丘陵の緩斜面が谷へ向かって変換する屈曲線に沿って掘り込まれた溝で、西肩の緩斜面上には 4号溝が並走しており、南半部の西壁上縁は 4号溝によって削平されている。溝は、ほぼ磁北方向に沿って直線的に伸び、溝幅は 110cm、底幅は 75 ~ 80cm、深さは 65cm で、断面形は逆台形をなしている。溝底の標高は北端が 12.65m、中央が 12.76m、南端が 12.72m で開析谷の開口部に向かって北流している。覆土は、黒～黒褐色土の単一層で、遺物は土師器甕・高环・坏や須恵器甕・坏のほかに青磁碗片が出土した。

4号溝 SD-04 (20~23)

4号溝は、丘陵が北から湾入する開析谷に向かって緩やかに傾斜する丘陵端を磁北に沿って流れ、南側は3号溝を切っている。溝幅は上縁が75~115cm、底幅が20~40cm、深さは70~80cmで断面形は浅い舟底状をなしている。溝底の標高は北端が12.83m、中央部が12.85m、南端が12.75mでやや南流する傾向がある。溝底には水性堆積物があり、灌漑路の機能が考えられる。土師器や須恵器と青磁碗・肥前磁器皿が出土。

9は端反り口縁の白磁皿。口径が12.4cm、器高は2.8cm。疊付の内端には目砂が付着。10は玉縁口縁の白磁碗で、口径15cm。IV類。灰白色釉を半釉掛けし、器面全体に貫入がある。11は口径10.2cm、器高が2.6cmの青花皿磁器。見込は蛇の目の釉剥ぎ。高台内は無釉で、やや縮緬状になっている。

6 その他の遺構と包含層出土

の遺物 (24~25)

調査では、ピットを多数検出し、柱痕跡が明瞭な柱穴もあるが、緩斜面上に占地的制約からかひとつの遺構にはならなかった。ピットからは土師器や須恵器、瓦器、弥生土器、青磁の小片が出土した。

12はSP-17出土の鉄袖の備前系陶器蓋。口径6.3cm、器高8mm。13はSP-14出土の須恵器環で高台径は9.6cm。高台端は内外に摘み出し、疊付は水平。底部がヨコナデ、底部は内底がナデ、外面はヘラ切り。胎土は精良で細~小砂粒わずかに含む。

14は「寛永通寶」で遺物包含層より出土。

III. 小 結

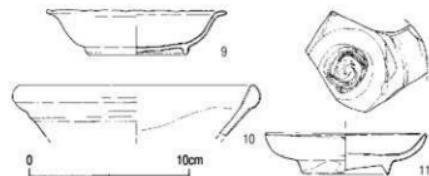
第19次調査では、弥生時代の貯蔵穴と奈良時代の住居跡のほかに土壙と近世の溝遺構を検出した。しかし、丘陵端に占地する立地的制約から遺構は少なく、分布的な拡がりは明らかでない。このうち貯蔵穴は、第18~20次調査区でも確認されており、丘陵の尾根筋に沿って幾つかのグループを形成しながら拡がっていることは明らかである。丘陵上には、この貯蔵穴群を内包する集落域が拡く展開していることが予測され、本調査区周辺を含めた丘陵上の調査成果を基に総合的に検討を加えたい。



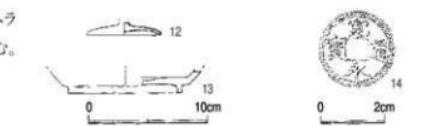
21. 3・4号溝全景(北より)



22. 3・4号溝土層断面(南より)



23. 4号溝出土遺物実測図(1/3)

24. 14・17号ピット出土遺物
実測図(1/4)25. 包含層出土銅銭
拓影(2/3)

報告書抄録

ふりがな	むぎの A いせき 6							
書名	麦野 A 遺跡 6							
副書名	麦野 A 遺跡第 19 次調査報告							
卷次								
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 1055 集							
編著者名	小林義彦							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	〒 810-8621 福岡市中央区天神 1 丁目 8 番 1 号							
発行年月日	2009 年 3 月 31 日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ° °	東経 ° ° °	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
むぎの A いせき 麦野 A 遺跡	ふくおか し はかた 福岡市博多区 麦野 5 丁目 8 - 27 ~ 29・34	40130	0050	33° 33' 3"	130° 27' 48"	20070719 ~ 20070810	374	共同住宅 建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
麦野 A 遺跡 第 19 次	集落	弥生～古墳 近世	貯蔵穴 土壙墓	竪穴住居跡 土壙	弥生土器 土師器 須恵器 鉄器			

麦野 A 遺跡 6

-麦野 A 遺跡第 19 次調査報告-
福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1055 集

2009 年(平成 21 年)3 月 31 日

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神 1-8-1

印刷 株九州カスタム印刷